

実体経済の動向

◇生産、出荷の増勢続く

(生産——増勢持続)

鉱工業生産(季節調整済み)は、8月前月比-0.7%と微減したあと9月(速報)は+2.7%と再び大幅な増加を示した。8月の減少は前4か月著増の反動など一時的な性格が強いとみられるので、3か月移動平均によってならしてみると、6月+1.4%、7月+1.0%、8月+1.6%と一貫した増勢が続いていることとなり、生産は若干のフレを伴いつつも春以降の拡大基調を持続しているものと判断される。この結果、7～9月の生産増加率は前期比+4.0%と4～6月の+6.3%に引き続いて相当の高水準となり、また44年度上期(4～9月)の前年同期比伸び率は+17.0%に達した。

最近の動きを特殊分類別にやや詳しくみると次のとおりである。

一般資本財……8月は前月大幅な増加を示した化学機械、金属加工機械をはじめ農業用機械、特殊産業用機械等が減少したため、土木建設鉱山機

械、電動機等の増加にもかかわらず、-0.4%と微減。9月も運搬機械、印刷機械、圧延機械等の減少が響いて-0.4%と引き続き減少。

資本財輸送機械……8月はトラック、大型乗用車の減少にもかかわらず、船舶、鉄道車両が増加したため+0.8%、9月も需要期を控え乗用車の大幅増や中・大型トラック、二輪自動車の増産などから、かなりの増加となった模様。

建設資材……金属製建具、鉄骨、橋りょうを中心に8月-4.9%と減少したあと、9月は前月減少の金属製建具(スチールサッシ、アルミサッシ)をはじめ板ガラス、セメント、耐火レンガ等の窯業製品が増加したため+4.0%と増加。

耐久消費財……8月はモデルチェンジを実施した軽乗用車、エアコンディショナー、扇風機等を中心に+0.9%と増加し、9月も乗用車、オートバイ、ラジオ、テレビ、カメラ、腕時計等を主体に+3.3%と引き続き増加。

非耐久消費財……8月は食料品、たばこが大幅に減少したため、灯油、医薬品の増加にもかかわらず-2.2%とかなり減少し、9月は塩ビ・ポリエチレン製品、灯油を中心に-0.4%と微減。

生産財……8月は鉄鋼、機械部品、化学、石油製品の増加にもかかわらず、非鉄、ゴム、皮革等が減少したため+0.2%と小幅増加にとどまったが、9月は鉄鋼、非鉄、化学製品、ゴム、繊維、機械部品(変速機、ベアリング)等が軒並み増加したため+2.4%と大幅に増加。

(出荷——9月は再び大幅増加)

鉱工業出荷(季節調整済み)は、8月-2.2%と8か月ぶりに減少したあと、9月(速報)は+3.5%と大幅に増加した。8月の減少には、生産同様前月までの著伸の反動やフレの大きい船舶の著減(-23.2%)といった事情が影響しているとみられ、これを3か月移動平均してみると、6月+1.5%、7月+0.5%、8月+1.2%と、引き続き相当な増勢である。7～9月を通じてみても、出荷は前期比+3.1%と4～6月大幅増加(+5.9%)のあともかなりの伸長を示している。

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

		43 年		44 年		44 年		
		7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7月	8月	9月
鉱工業	指数	162.4	169.9	171.7	182.5	189.0	187.7	—
	前期(月)比	4.0	4.6	1.1	6.3	2.6	-0.7	2.7
	前年同期(月)比	17.5	17.6	15.5	16.8	17.1	16.2	16.8
投資財		4.4	7.3	0.2	5.4	4.0	-1.1	2.8
資本財		6.0	7.7	-0.7	5.2	3.3	0.5	2.6
同(輸送機械を除く)		1.4	9.5	1.5	7.5	2.2	-0.4	-0.4
輸送機械		15.0	3.9	-3.9	0.3	5.9	0.8	—
建設資材		0.6	6.8	1.9	5.9	6.0	-4.9	4.0
消費財		1.7	3.7	-0.8	-6.8	2.0	-1.3	2.7
耐久消費財		5.1	6.3	1.5	7.8	1.6	0.9	3.3
非耐久消費財		-0.1	2.0	-0.3	6.2	2.8	-2.2	-0.4
生産財		5.3	3.6	3.0	5.4	1.7	0.2	2.4

(注) 1. 通産省調べ、44年9月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

最近の出荷を特殊分類別にみると次のとおり。

一般資本財……8月は化学機械、金属加工機械、特殊産業用機械、ボイラー、原動機等が前月大幅増加の反動もあって減少したため-1.8%となったが、9月は、農業用機械(耕うん機)、合成樹脂加工機、普通鋼鋼管が著増したほか、工作機械、圧縮機、送風機等も増加したため、+6.5%と著増。

資本財輸送機械……船舶が著減したほかトラックも減少したため8月は-14.4%の減少となったが、9月は乗用車、トラック、二輪自動車を中心に小幅ながら増加した模様。

建設資材……8月は鉄骨、橋りょう、製材等を中心に-3.4%と減少したが、9月はセメント、鉄筋コンクリート管、板ガラス等の窯業製品、金属製建具(スチールサッシ、スチールドア)の増加から+2.9%と増加。

耐久消費財……8月はエアコンディショナー、扇風機、冷蔵庫等6月～7月前半にかけての冷夏による出遅れが目だった夏物家電製品が、暑気回復から大幅に増加したほか、モデルチェンジを実施した軽乗用車も大幅増となったため+3.2%と増加、9月もエアコンディショナーがメーカーの販売努力などから当月としては異例の伸びを示し

たほか、乗用車、オートバイ、カラーテレビ、腕時計等が軒並み増加したため+6.2%と大幅に増加。

非耐久消費財……食料品、医薬品、合成洗剤を中心に8月は-3.1%の減少となったが、9月は灯油、洗剤、万年筆等の伸長から微増。

生産財……8月は鉄鋼、繊維、ゴム等が減少したため、非鉄、化学等の増加にもかかわらず-0.2%と微減。9月は、鉄鋼、非鉄、化学、繊維、ゴム、段ボール、石油(軽油、重油)等が軒並みふえたため+3.2%と増加。

(製品在庫——9月は小幅の増加)

鉱工業製品在庫(季節調整済み)は、8月+1.8%のあと9月(速報)も+0.7%と小幅ながら引き続き増加した。8月を中心とする最近月の増加は主として耐久消費財、非耐久消費財、建設資材、資本財輸送機械の増加によるものであるが、この中には、モデルチェンジを実施した軽自動車、需要期を控えた石油ストーブ、灯油、秋冬物衣料等いわば前向きの在庫積増しとみられるものがかかなり含まれている。この間、一般資本財は2ヵ月続けて減少し、生産財も9月には減少を示した。なお、こうした在庫、出荷の動きを映じて、製品在庫率指数は、8月96.1と目だって上昇したあと、9月には93.5、前月比-2.7%と再びかなり低下した。在庫率水準を最近一両月についてならしてみると、一般資本財、生産財が42年引締め直前期とほぼ同程度のきわめて低い水準にあるのに対し、耐久消費財、建設資材が高めとなっているなど、財別にかなり区々な状態にあるのが特徴的である。

最近の製品在庫の動きを特殊分類別にみると、次のとおりである。

一般資本財……8月は土木建設鉱山機械(トラクター)、風水力機械(ポンプ、圧縮機、送風機)、農業用機械、鉄鋼用ロール等を中心に-1.8%と減少し、9月も、普通鋼鋼管、機械プレス、鉄鋼用ロール等を中心に-2.4%と引き続き減少。

資本財輸送機械……8月は大型乗用車、自動二輪車は減少したが、モデルチェンジを実施した軽トラックが大幅に増加したため+3.5%と増加。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	43 年		44 年		44 年		
	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7月	8月	9月
鉱 指 数	157.3	162.7	168.5	178.5	184.8	180.6	—
工 前期(月)比	2.1	3.4	3.6	5.9	2.4	-2.2	3.5
業 前年同期(月)比	14.8	15.9	14.9	16.2	18.5	15.5	17.9
投 資 財	1.3	4.9	3.6	7.9	1.0	-5.2	3.8
資 本 財	1.9	4.5	4.0	8.5	-0.3	-5.9	4.2
同 (輸送機械を除く)	-0.4	9.5	1.4	7.3	2.6	-1.8	6.5
輸 送 機 械	6.0	-3.3	2.3	9.0	-4.5	-14.4	—
建 設 資 材	-0.8	5.8	-0.7	6.9	4.7	-3.4	2.9
消 費 財	-0.2	2.9	4.6	4.8	3.0	-2.0	4.5
耐 久 消 費 財	7.3	2.7	5.7	3.1	5.8	3.2	6.2
非 耐 久 消 費 財	-2.6	3.3	2.8	5.1	1.8	-3.1	0.2
生 産 財	4.4	2.6	2.6	6.0	3.0	-0.2	3.2

(注) 1. 通産省調べ、44年9月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

9月は、大型乗用車、二輪自動車が増加の反面、大型トラック、小型トラックが減少し、全体では小幅減となった模様。

建設資材……8月は製材が外材の入着増の影響や夏休みによる工事の出遅れなどから大幅に増加したほか、セメントも増加したため+4.9%と大幅に増加した。9月は窯業製品(セメント、板ガラス)、金属製建具を中心に+0.2%と微増。

耐久消費財……8月に需要期控えの石油ストーブ、モデルチェンジを実施した軽乗用車、カラーテレビ等を中心として+3.4%と増加したあと、9月も石油ストーブ、乗用車、カメラ、テレビを中心に+4.0%と引き続き増加。この間、冷蔵庫、洗たく機等の在庫は減少。

非耐久消費財……需要期を控えた秋冬物衣料、灯油を中心に8月+2.0%のあと、9月も衣料品、石けん等の増加から+2.2%と増加。

生産財……8月は鉄鋼、機械部品、繊維等が増加したため、非鉄、化学、石炭製品等の減少にもかかわらず+0.4%と微増。9月は、鉄鋼、非鉄、化学等がそろって減少したため-1.4%の減少。

8月の原材料在庫(季節調整済み)は、7月微増

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)末比増減率・%)

	43年		44年		44年		
	9月	12月	3月	6月	7月	8月	9月
鉱工業製品在庫指数	143.2	156.0	159.3	168.3	170.4	173.5	—
前期(月)末比	5.4	8.9	2.1	5.6	1.3	1.8	0.7
前年同期(月)末比	23.6	25.4	21.1	23.5	21.9	22.1	22.5
製品在庫率	89.8	95.9	92.5	93.2	92.2	96.1	93.5
投資財	11.9	11.4	4.7	3.4	0.7	1.2	1.0
資本財	13.8	11.4	5.9	1.3	1.4	1.1	2.2
同(輸送機械を除く)	6.4	13.6	8.8	2.0	0.1	1.8	2.4
輸送機械	42.3	10.9	5.5	16.2	8.3	3.5	—
建設資材	9.6	11.6	3.6	9.3	0.3	4.9	0.2
消費財	6.5	12.1	4.2	8.4	2.3	3.6	3.8
耐久消費財	8.4	16.3	3.7	18.8	2.8	3.4	4.0
非耐久消費財	3.9	6.7	7.6	2.8	1.4	2.0	2.2
生産財	1.5	4.5	8.6	4.3	0.2	0.4	1.4

(注) 1. 通産省調べ、44年9月は速報。

2. 前年同期(月)末比は、原指数による。

(前月比+0.1%)のあと、+1.6%の増加となった。業種別にみると、鉄鋼(輸入鉄くず)が引き続き増加したほか、非鉄(輸入銅・鉛鋳)、窯業・土石、

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	43年	44年		44年		
	12月	3月	6月	6月	7月	8月
在庫指数	140.1	141.6	138.7	138.7	138.8	141.1
前期(月)末比	6.7	1.1	-2.0	0.3	0.1	1.6
国産分	6.3	1.3	-0.3	0.5	0.5	0.7
素原材料	11.0	-0.9	-7.1	-4.9	-0.8	-2.1
製品原材料	4.4	2.2	2.1	2.0	0.9	1.9
輸入分	8.2	0.4	-7.9	0.3	0.4	4.5
素原材料	7.7	0.4	-7.6	0.7	0.5	4.5
在庫率指数	87.2	84.2	78.5	78.5	77.2	77.7
国産分	82.2	79.6	75.2	75.2	74.5	74.3
素原材料	99.1	94.4	85.0	85.0	82.5	81.0
製品原材料	79.2	77.2	74.6	74.6	74.3	74.9
輸入分	103.4	97.7	91.3	91.3	86.1	88.6
素原材料	105.3	100.4	93.4	93.4	88.2	90.5

(注) 通産省調べ、44年8月は暫定。

製造工業原材料消費の推移

(季節調整済み、前期(月)比増減率・%)

	43年	44年		44年		
	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
製造工業	2.7	3.9	5.0	1.0	1.8	1.0
国産分	2.4	3.7	5.3	1.3	1.4	0.9
素原材料	3.2	3.4	3.0	-0.1	2.1	-0.3
製品原材料	2.4	3.7	5.7	1.5	1.3	1.1
輸入分	4.7	6.6	1.6	-1.1	5.7	1.5
素原材料	3.9	5.8	1.6	-0.8	5.3	1.9
製品原材料	14.6	14.1	2.9	-2.3	8.3	-2.9

(注) 通産省調べ、44年8月は暫定。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	43年	44年		44年		
	12月	3月	6月	5月	6月	7月
総合指数	147.9	146.9	145.6	143.5	145.6	141.2
前期(月)末比	3.9	-0.7	-0.9	-1.4	1.5	-3.0
素原材料	1.1	-27.2	-14.0	-4.5	0.7	3.2
製品	4.5	1.8	0.6	-1.1	1.8	-3.7

(注) 通産省調べ、44年7月は暫定。

金属製品工業等の在庫が増加しており、また特殊分類別には、輸入分が素原材料、製品原材料ともかなり増加を示している。一方、8月の原材料消費は7月+1.8%のあと+1.0%と引き続き増加しており、こうした在庫、消費の動きを映じて8月の原材料在庫率指数は77.7、前月比+0.6%と8か月ぶりに上昇し、また年初来かなり大幅な低下を示した輸入素原材料在庫率(1～7月間-16.4%)も90.5、前月比+2.6%とかなり上昇した。

7月の販売業者在庫(季節調整済み)は、6月+1.5%のあと、-3.0%とやや減少が目だった。繊維原料、糸、カメラ、時計は若干増加したものの、自動車、生ゴム、非鉄等が減少したため、3か月移動平均によってならしていても、4月-1.6%、5月-0.3%、6月-1.0%とこのところ減少ぎみとなっている。

(設備投資——増加基調を継続)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み)の動きをみると、8月-1.8%のあと9月は+6.5%と著増を示した。3か月移動平均によって月々のフレをならしていても、6月+1.7%、7月+0.4%、8月+2.4%とかなりの増勢を示している。

先行指標である機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み)は、8月-1.3%のあと9月も-2.7%と小幅の減少を示した。もっとも7～9月を通じ

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	44 年			44 年		
	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	7月	8月	9月
民 需	1,893	2,142	2,127	2,077	2,103	2,202
	(+ 1.8)	(+13.1)	(- 0.7)	(- 2.8)	(+ 1.2)	(+ 4.7)
同 (船舶を除く)	1,682	1,823	2,019	2,056	2,028	1,973
	(- 1.4)	(+ 8.4)	(+10.8)	(+ 7.9)	(- 1.3)	(- 2.7)
製 造 業	1,055	1,118	1,280	1,334	1,249	1,256
	(+ 4.6)	(+ 6.0)	(+14.5)	(+13.7)	(- 6.3)	(+ 0.5)
非製造業	850	1,012	863	773	856	961
	(- 1.2)	(+19.0)	(- 14.7)	(- 18.5)	(+10.8)	(+12.2)
同 (船舶を除く)	627	700	759	753	788	736
	(- 13.6)	(+11.6)	(+ 8.4)	(+ 3.5)	(+ 4.6)	(- 6.6)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

てみると、7月の著増(+7.9%)などが響いて前期比+10.8%と大幅な増加を示すこととなり、また同時に発表された10～12月の受注見通し額が7～9月実績比+9.7%と大幅な増加を示すと予想されていることから推して、機械受注は根強い増加基調を続けているものとみられる。9月の動きを受注先業種別にみると、製造業は鉄鋼、石油・石炭、窯業からの受注増にもかかわらず、化学、繊維、自動車、紙・パルプからの受注減が響いて+0.5%と小幅の増加にとどまった。一方非製造業からの受注は前月著増した電力からの受注がかなり減少したため、-6.6%の減少となった。

◇商品市況は鉄鋼、非鉄が着ききみながら、需給の引き締まり基調に変わりなく高水準で推移

10月にはいつてからの商品市況をみると、主力商品では、綿糸、銅等が統落し棒鋼も騰勢一服となったが、合繊、亜鉛は堅調を持続、鋼板類等も高値横ばいを続けている。その他の商品では、砂糖がチクロ問題で急騰、化学品、石油製品、建材等強含みに推移した。このように品目別の動きは区々であり、相場がかなりの高水準に達しているところから値動きも総じて小幅となっているが、大勢として商況の地合いが堅調であることに変わりはない。

これまで値上がりの中心となっていた鉄鋼、非鉄の騰勢がここきて鈍っているのは、数か月に及ぶ急騰のあと、さすがに高値警戒人氣が台頭した(鉄鋼)とか、海外相場の下落をながめて先安不安が生じた(銅、鉛)などの要因によるもので、これが一部商社の利食い売りやユーザーの模様ながめの態度を誘っているが、国内需給の実勢は引き続き引き締まり状態となっている。このほか、化学品、石油製品、建材等多くの商品の需給が、季節需要の盛り上がりも加わってかなりの引き締まりをみせており、このためメーカーの値上げ意欲が強まっている。

市況の先行きについては、相場がすでにかなりの高水準にあること(鉄鋼)、海外相場が弱含みを示していること(銅、鉛)などから、総じて大幅上

伸は見込まれないものの、上記のような需給の引き締め持続を映じて、当面は引き続き堅調に推移するものとみられる。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……7月以来急騰してきた棒鋼が続伸のあと騰勢一服模様となったほか、鋼板類、形鋼は引き続き高値横ばいで推移した。このように、ひとところに比べれば値動きは落ち着きをみせているものの、相場はかなりの高水準にあり、内外需の堅調を背景に需給が引き締まりを続けていることに変わりはない。

繊維……合繊が堅調を続けたほかスフ糸も久方ぶりに小反発したが、綿糸、人絹糸、そ毛糸等は続落した。このような主力繊維の市況軟調は、メーカーの市販急ぎや仕手の後退(そ毛糸)などがその背景になっており、目先、商社、機屋筋には先安観が強い。

非鉄……主力の銅が、海外相場の軟化からユーザーの仕入れ態度が慎重化し、続落となったが、

鉛は横ばい、亜鉛、ニッケルは国内需給のひっ迫と海外相場高から騰勢を持続した。

石油……軽油を除き総じて強含みに推移した。ガソリンはレジャー需要の好伸などから堅調。C重油は、関連業界向け出荷が好調であるため、需給の引き締まりをみせており、メーカーは鉄鋼向けの価格引上げを突破口に、主力の電力をはじめ、紙・パルプ、セメント業界などに対する値上げ交渉に注力。灯油も需要期を控えてメーカーが再値上げをもくろんでいる。なお、軽油は荷もたれ感が強く、依然軟調。

セメント……民間、官公庁関係の建設工事が季節的に本格化しているために荷動きは活発ながら、販売競争が激しく市況は強含み程度にとどまった。

木材……内材が秋需最盛期とあって出荷も盛り上がりを見せ、強含みに推移した。一方、外材は、荷動きが上向いているものの、在庫水準が依然高いこともあって横ばい。

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウエイト	下降期 (ピーク 43/2) 43/2 →43/7	上昇期 (ボトム 43/7) 43/7 →44/9	最 近 の 推 移							
				44 年			44 年 9 月			44年10月	
				7 月	8 月	9 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬
総 平 均	100.0	- 0.9	+ 3.7	+ 0.2	+ 0.5	+ 0.7	+ 0.4	保 合	+ 0.3	+ 0.1	保 合
食 料 品	15.7	+ 1.8	+ 5.8	+ 0.3	- 0.2	+ 0.9	+ 0.3	保 合	+ 0.3	+ 0.1	+ 0.2
織 維 品	10.7	- 1.7	- 1.5	- 0.2	+ 0.2	+ 0.1	- 0.1	- 0.2	保 合	+ 0.3	+ 0.1
鉄 鋼	9.7	- 1.7	+ 11.2	+ 0.3	+ 1.8	+ 2.5	+ 1.1	+ 0.9	+ 0.6	+ 0.8	- 0.3
非 鉄 金 属	4.4	- 9.5	+ 24.0	+ 1.3	+ 3.7	+ 3.4	+ 1.8	- 0.5	+ 0.8	- 0.8	- 0.2
金 属 製 品	3.8	- 0.6	+ 3.9	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.7	+ 0.5	保 合	+ 0.3	保 合	保 合
機 械 器 具	22.1	+ 0.3	- 0.2	- 0.1	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1	保 合	保 合	保 合	保 合
石油・石炭・同製品	5.6	- 4.1	- 1.9	- 0.3	- 0.1	- 0.6	- 0.5	- 0.1	- 0.1	+ 0.1	- 0.2
木材・同製品	6.2	- 1.2	+ 5.8	+ 0.9	+ 0.9	+ 1.7	+ 0.8	+ 0.1	+ 0.6	+ 0.5	- 0.1
窯 業 製 品	3.0	+ 0.8	+ 2.3	+ 0.2	- 0.1	+ 0.3	+ 0.3	保 合	保 合	+ 0.2	保 合
化 学 品	7.6	- 1.6	- 0.8	- 0.4	- 0.1	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.2	保 合	+ 0.1	保 合
紙・パルプ・同製品	3.4	- 0.6	+ 3.3	+ 0.5	+ 0.6	+ 1.2	+ 0.4	保 合	+ 0.3	+ 0.4	保 合
雑 品 目	7.9	同水準	+ 3.0	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.2	保 合
工 業 製 品	82.0	- 0.5	+ 3.1	+ 0.1	+ 0.5	+ 0.7	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.1	+ 0.2	保 合
うち											
大 企 業 性	59.6	- 0.5	+ 2.2	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.8					
中 小 企 業 性	21.0	- 0.1	+ 4.7	+ 0.3	+ 0.6	+ 0.6					
非 工 業 製 品	18.0	- 2.4	+ 6.1	+ 0.3	+ 0.6	+ 1.2	+ 0.5	- 0.2	+ 0.3	+ 0.4	保 合

(注) 本行調べ。

化学品……塩酸、カーバイドが需給の引き締まりを背景にメーカーの建値引上げがかなり浸透。その他硫酸、合成樹脂等も堅調裡に推移した。

紙……洋紙は、コート紙を除きクラフト紙、上質紙等に供給過剰感が根強く軟調。一方、板紙は、ダンボール原紙を中心に強含み。

砂糖……飲料用需要の伸び悩みから荷もたれ感が強まって月央まで値下がりしたが、下旬にはいりチクロの販売禁止問題からおもわく筋の買いがはいって急騰。

(9月の卸売物価——高騰)

9月の卸売物価は総平均で前月比+0.7%と、42年2月以来の上昇を示した。この結果8ヵ月にわたる連騰となり、本年度上半期中の上昇幅は+2.4%、年率換算4.9%に達した。

9月の高騰は、季節需要が加わったこともあって需要が堅調の度合いを強めていることのほか、材料費高などの影響によるもので、石油・石炭・同製品を除いて軒並み上昇した。とりわけ、非鉄金属(銅地金、電線、伸銅品)、鉄鋼(小形棒鋼、輸入銑鉄)、木材・同製品(国産原木、製材)、紙・パルプ・同製品(段ボール箱、同原紙)、食料品(鶏卵、干のり、豚肉)の値上がりが目だった。産業別分類では、非工業製品の上昇(前月比+1.2%)もさることながら、工業製品も大幅に上昇(同+0.7%)し、とくに大企業性製品の上昇(+0.8%)が中小企業性製品(+0.6%)のそれを上回ったことが注目される。

10月にはいってからも、上旬は前旬比+0.1%と続騰した。品目別にみると、非鉄金属(銅地金)は海外相場の軟化を映じて反落したが、それ以外では鉄鋼、木材・同製品、紙・パルプ・同製品等が軒並み値上がりした。もっとも、中旬は保合いとなったが、鉄鋼(棒鋼)のほか木材・同製品(国産原木)、非鉄金属(伸銅品、銅くず)、石油・石炭・同製品(原油、原料炭)が下落したものの、食料品(鶏卵)および繊維品(生糸、綿花)は続騰した。

(9月の工業製品生産者物価——続騰)

9月の工業製品生産者物価は、総平均で前月比

+0.7%と騰勢を強めた。これは、非鉄金属、普通鋼鋼材をはじめ、金属製品、木材・同製品、食料品等が上昇したためで、一方、天然および化学繊維、合成繊維、織物は下落した。

工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウェイト	前年度 比上昇 率 43年度 平均	最近の推移			
			44年			
			6月	7月	8月	9月
総平均	100.0	+0.3	+0.2	+0.1	+0.4	+0.7
食料品	12.6	+5.7	+0.2	+0.1	+0.1	+0.5
天然および化学繊維	3.0	-4.7	+1.3	-0.5	+0.5	-1.2
合成繊維	1.4	-6.4	+0.1	-0.2	保合	-0.2
繊維物	2.8	-0.5	+0.7	-0.1	+0.7	-0.1
繊維二次製品	3.2	+5.3	保合	+0.6	+0.4	+0.6
普通鋼鋼材	7.2	-5.3	+1.5	+0.2	+1.9	+3.1
特殊鋼鋼材その他	2.5	-2.1	+0.5	+0.3	+0.1	+0.1
非鉄金属	4.4	-0.5	+0.7	+1.2	+2.0	+4.4
金属製品	4.6	+0.6	+0.3	+0.2	+0.4	+0.6
一般機械	10.4	+2.1	+0.1	+0.1	+0.1	+0.3
輸送機械	8.3	-1.6	-0.2	保合	保合	保合
電気機械器具	9.1	-1.0	-0.1	保合	+0.2	+0.1
石油・石炭製品	3.7	-1.3	+0.1	+0.1	+0.2	保合
木材・同製品	5.0	+5.1	-0.6	+0.7	+0.4	+0.5
窯業製品	3.4	+0.9	+0.7	保合	保合	+0.3
化学製品	7.8	-2.6	保合	-0.5	保合	+0.1
紙・パルプ・同製品	4.5	-0.1	+0.2	+0.4	+0.6	+1.1
雑品目	6.1	+0.2	-0.3	+0.1	+0.1	+0.3

(注) 本行調べ。

(10月の消費者物価(東京)——小反落)

10月の消費者物価(東京)は、くだもの、生鮮魚介の大幅下落を主因に総平均で前月比-0.2%と小反落した。もっとも、季節商品を除く総合では前月比+0.7%とかなりの上昇となり、根強い騰勢基調がうかがわれる。

品目別にみると、食料費が上記くだもの等の値下がりから前月比-0.9%と反落したが、その他の品目では被服費が続騰(前月比+1.0%)したほか、住居費、光熱費、雑費も小幅ながら上昇した。

(9月の輸出入物価——輸出物価は続騰、輸入物価は反落)

9月の輸出物価は、前月比+0.5%と昨年12月

以来10ヵ月間の続騰となった。品目別にみると、金属・同製品(棒鋼、薄板、銅板)、機械器具(船舶)、食料品(まぐろかん詰)が引き続き上昇したほか、雑品目(人造プラスチック容器)が反騰、繊維品(生糸、毛織物)も値上がりを示した。

一方、輸入物価は、前月比-0.4%と反落、7月以来一高一低のうちにも弱含み状態が続いている。9月の下落は、鉱物性燃料(原油)および雑品目(大豆、天然ゴム)の値下がりによるもので、金属(銑鉄、鉄くず)、食料品(とうもろこし、小麦)は続騰した。

この結果、交易条件指数は前月比+0.9ポイントの大幅上昇となった。

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

		ウエイト	前年度比 上 昇 率		最近の推移			近 の 年 月 同 比		
			42	43	44 年					
			年 度	年 度						
			平 均	平 均	8 月	9 月	10 月			
消 費 者 物 価	東 京	総 合 (季節商品を除く)	100.0	+4.1	+5.2	-0.1	+1.3	-0.2	+ 6.0	
			91.4	+3.9	+5.6	+0.3	+1.2	+0.7	+ 5.8	
		食 料	40.9	+5.7	+6.5	-0.6	+0.9	-0.9	+ 6.4	
		住 居	10.7	+3.7	+2.4	+1.0	+0.8	+0.3	+ 3.2	
		光 熱	4.5	+0.1	+0.3	保 合	-0.1	+0.2	+ 0.2	
	被 服 雑 費	被 服	13.0	+3.0	+5.5	+1.5	+5.4	+1.0	+ 8.3	
		雑 費	31.0	+3.4	+5.3	-0.1	+0.3	+0.3	+ 6.2	
		全 国	総 合 (季節商品を除く)	100.0	+4.2	+4.9	+0.9	+0.7		+ 5.6
				91.4	+3.9	+5.3	+0.2	+0.8		+ 5.2
			上 の 5 都 市 以 上	総 合 (季節商品を除く)	100.0	+4.1	+4.9	+0.8	+0.7	
	91.3			+3.9	+5.3	+0.2	+0.9		+ 5.3	
輸 入 物 価	輸 出			+0.2	+0.6	+0.3	+0.5		+ 3.5	
	輸 入		-0.4	-0.3	+0.3	-0.4		+ 3.6		
	交易条件		+0.7	+0.9	保 合	+0.9		- 0.1		

(注) 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。

◇国際収支は既往最高の黒字

9月の国際収支は、季節的要因もあり、総合収支で341百万ドルの大幅黒字となった。総合収支の黒字が3億ドル台を記録したのは、統計作成以来はじめてである(これまでの最高は、本年6月の282百万ドル)。このように総合収支が好調であったのは、貿易収支が季節的要因もあって大幅

な黒字(378百万ドル)となったうえに、長期資本収支も3ヵ月ぶりに、また短期資本収支もそれぞれかなりの黒字となったことによるものである。

貿易収支を季節調整後でみても272百万ドルの黒字と、本年1~7月平均3億ドル強の黒字には及ばなかったものの、前月(236百万ドル)に比べ黒字幅がやや拡大した。貿易収支の先行きについては、輸入の増勢が続く反面、輸出も先行指標の動きなどからみて依然好調を持続するものと予想されるため、当面は引き続きかなりの黒字を維持できるものとみられる。

長期資本収支は、7月(65百万ドル)、8月(58百万ドル)とかなりの赤字を続けたあと、9月は3ヵ月ぶりに24百万ドルの黒字となった。これは、延払い信用を中心に本邦資本の流出が高水準であった(115百万ドル、前月99百万ドル)にもかかわらず、外国資本の流入がこれを上回り(139百万ドル、前月41百万ドル)、本年6月(162百万ドル)

国際収支

(単位・百万ドル)

	44 年			44 年			前年 9 月
	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	7 月	8 月	9 月	
経常収支	177	558	683	245	205	233	225
貿易収支	607	920	1,083	371	334	378	342
輸出	3,283	3,801	4,160	1,390	1,353	1,417	1,154
輸入	2,676	2,881	3,077	1,019	1,019	1,039	812
貿易外収支	△ 377	△ 309	△ 362	△ 118	△ 117	△ 127	△ 111
移転収支	△ 53	△ 53	△ 38	△ 8	△ 12	△ 18	△ 6
長期資本収支	47	79	99	△ 65	△ 58	24	△ 35
基礎的収支	224 (567)	637 (773)	584 (309)	180 (109)	147 (49)	257 (151)	190 (90)
短期資本収支	△ 7	△ 16	32	△ 32	38	26	△ 44
誤差脱漏	61	16	42	△ 28	12	58	49
総合収支	278	637	658	120	197	341	195
金融勘定	278	637	658	120	197	341	195
外貨準備増減	322	△ 124	137	△ 55	92	100	137
その他	△ 44	761	521	175	105	241	58
外貨準備高	3,213	3,089	3,226	3,034	3,126	3,226	2,360
為銀対外ポジション	△ 830	△ 99	391	103	183	391	△ 857

(注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。

2. 短期資本収支は金融勘定に属するもの含まない。

3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

ル)に次ぐ高水準となったことによるものである。外国資本の流入増は、株式市況の活況を背景に米国を中心とする外国投資家による証券投資が再び急増した(流入超107百万ドル、前月15百万ドル)ほか、3ヵ月ぶりに外債の発行が行なわれた(横浜市債ほか1件)ことが主因で、民間インパクト・ローンは海外金利高からこのところ取入れ自体がやや減少ぎみにあるうえに、当月は返済がかさんだこともあり、小幅の増加(8百万ドル)にとどまった。なお当月は、ガリオア・エロア債務の返済が19百万ドル行なわれた。

金融勘定では、外貨準備が月中1億ドル増加して月末残高3,226百万ドルと本年3月末(3,213百万ドル)をしのぎこれまでの最高となった。また為銀の対外ポジションも、輸出手形の買持ち増加や円シフトの進捗などから、月中208百万ドル(前月80百万ドル)の大幅改善を示し、9月末には391百万ドルの資産超となった。

9月の輸出は、前月やや伸び悩んだあと再び持

ち直し(季節調整後の前月比、7月+2.6%、8月-2.8%、9月+3.6%)、1,417百万ドル(前年同月比+22.8%)。なお通関ベースでフレの大きい船舶を除くと同+29.5%)と、昨年12月(1,404百万ドル)を上回る既往最高となった。商品別の輸出状況(通関ベース、前年比)をみると、船舶が前年の水準がきわめて高かったため前年同月比では大幅減少(-24%)ながら、3ヵ月ぶりに1億ドル台を回復したほか、鉄鋼(+31%)が非米地域向けに引き続き好伸、化学製品(+42%)、自動車(+36%)、ラジオ(+36%)、合繊織物(+35%)等も好調を続した。また仕向け先別には、鉄鋼、化学製品を中心とする西欧向け(+43%)や化学肥料、繊維品、光学機器等を中心とする共産圏向け(+71%)が著伸をみたほか、主力の米国向け(+25%)も自動車等機械中心に、また東南アジア向け(+25%)も鉄鋼、合繊織物等を中心にそれぞれ前月を上回る伸びをみせた。

先行指標の輸出信用状接受額は、9月も前年同

月比+31.1%、季節調整後の前月比では+2.4%と好調を維持しており、また商社の輸出成約額も依然前年を2割方上回る好調を続けていることなどから推して、輸出は当面なお順調な伸びを続けるものとみられる。

一方9月の輸入は、1,039百万ドル、前年同月比+28.0%(前月同+26.0%)と引き続き高水準で、季節調整後でも前月比+1.0%と増勢を持続している。商品別の輸入状況(通関ベース、前年比)をみると、鉄鉱石(+34%)、鉄鋼くず(+95%)、石炭(+37%)、非鉄金属鉱石(+47%)、非鉄地金(+83%)、機械(+43%)等が引き続き高水準であ

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支			通 関		輸 出	輸 出	輸 入
	輸 出	輸 入	貿 易 じ り	輸 出	輸 入	信用状	認 証	承 認
43年								
7～9月	1,074 (+ 2.7)	868 (+ 5.8)	206	1,098 (+ 3.2)	1,107 (+ 6.3)	881 (+ 4.2)	1,162 (+ 3.6)	997 (+ 5.5)
10～12月	1,157 (+ 7.7)	894 (+ 3.1)	263	1,174 (+ 7.0)	1,142 (+ 3.2)	956 (+ 8.5)	1,234 (+ 6.2)	1,047 (+ 5.0)
44年								
1～3月	1,224 (+ 5.8)	907 (+ 1.4)	317	1,248 (+ 6.3)	1,147 (+ 0.4)	1,024 (+ 7.1)	1,254 (+ 1.6)	1,063 (+ 1.6)
4～6月	1,275 (+ 4.2)	923 (+ 1.7)	352	1,300 (+ 4.1)	1,156 (+ 0.8)	1,039 (+ 1.5)	1,348 (+ 7.5)	1,238 (+ 16.5)
7～9月	1,336 (+ 4.8)	1,067 (+ 15.6)	269	1,372 (+ 5.6)	1,347 (+ 16.5)	1,128 (+ 8.5)	1,418 (+ 5.2)	1,252 (+ 1.1)
44年 5月	1,263 (+ 1.1)	911 (+ 5.8)	352	1,275 (- 0.2)	1,148 (+ 6.6)	1,030 (+ 0.2)	1,336 (+ 1.5)	1,171 (- 12.9)
6月	1,312 (+ 3.9)	996 (+ 9.3)	316	1,347 (+ 5.6)	1,243 (+ 8.3)	1,060 (+ 2.9)	1,392 (+ 4.2)	1,200 (+ 2.5)
7月	1,346 (+ 2.6)	1,046 (+ 5.0)	300	1,390 (+ 3.3)	1,306 (+ 5.1)	1,111 (+ 4.8)	1,445 (+ 3.8)	1,229 (+ 2.5)
8月	1,308 (- 2.8)	1,072 (+ 2.5)	236	1,335 (- 4.0)	1,342 (+ 2.7)	1,123 (+ 1.1)	1,331 (- 7.9)	1,247 (+ 1.4)
9月	1,355 (+ 3.6)	1,083 (+ 1.0)	272	1,392 (+ 4.3)	1,392 (+ 3.7)	1,150 (+ 2.4)	1,478 (+ 11.1)	1,281 (+ 2.7)

(注) 1. 四半期計数は月平均額。
2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。
3. 季節調整はセンサス局法による。

ったほか、砂糖(+146%)、とうもろこし(+28%)、肉類(+104%)等の著増を主因に食料品の伸び(+34%)も高まり、またこれまで落ちていた羊毛(+27%)、大豆(+20%)、木材(+19%)などもかなり水準を高めた。

先行指標である輸入承認額をみると、9月は前年同月比+30.2%、季節調整後でも前月比+2.7%(8月は同+1.4%)と、引き続き根強い増加を示

しており、鉄鋼原材料(鉄鉱石、鉄鋼くず、石炭)、非鉄金属鉱石、木材等の原燃料や、食料品の伸びの高いのが目だっている。

なお、8月の輸入素原材料在庫率指数(季節調整後)は90.5、前月(88.2)比+2.6%とかなりの上昇となったが、鉄鋼原材料や原油等主要原材料の在庫率水準は依然低いことから、今後なお若干の在庫補充が進む可能性があるものとみられる。

通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	44 年			44 年		
	1~3月	4~6月	7~9月	7月	8月	9月
食料品	103 (- 1)	171 (+ 91)	169 (+ 53)	55 (+ 85)	60 (+ 70)	54 (+ 18)
魚介類	53 (- 26)	57 (+ 10)	82 (+ 12)	23 (+ 31)	27 (+ 18)	31 (- 3)
繊維製品	472 (+ 29)	561 (+ 16)	582 (+ 13)	198 (+ 18)	193 (+ 7)	191 (+ 17)
綿織物	51 (+ 12)	56 (- 5)	54 (- 10)	18 (- 8)	18 (- 13)	19 (- 8)
合繊維物	97 (+ 41)	121 (+ 33)	136 (+ 32)	44 (+ 32)	45 (+ 28)	46 (+ 35)
化学製品	200 (+ 34)	225 (+ 9)	292 (+ 33)	95 (+ 32)	97 (+ 26)	100 (+ 42)
非金属 鉱物製品	85 (+ 20)	99 (+ 20)	100 (+ 23)	33 (+ 20)	33 (+ 24)	34 (+ 26)
金属製品	604 (+ 25)	695 (+ 19)	771 (+ 25)	254 (+ 25)	243 (+ 18)	274 (+ 33)
鉄鋼	448 (+ 27)	508 (+ 19)	559 (+ 23)	180 (+ 24)	173 (+ 15)	206 (+ 31)
機械機器 (船舶を除く)	1,547 (+ 33)	1,690 (+ 24)	1,860 (+ 27)	624 (+ 42)	595 (+ 23)	641 (+ 19)
テレビ	61 (+ 56)	83 (+ 47)	110 (+ 31)	33 (+ 40)	39 (+ 38)	38 (+ 17)
ラジオ	106 (+ 46)	136 (+ 40)	164 (+ 37)	55 (+ 41)	52 (+ 34)	57 (+ 36)
自動車	221 (+ 61)	235 (+ 32)	268 (+ 45)	92 (+ 50)	88 (+ 49)	88 (+ 36)
船舶	316 (+ 13)	240 (- 5)	257 (- 8)	89 (+ 47)	62 (- 21)	106 (- 24)
光学機器	89 (+ 22)	111 (+ 23)	116 (+ 18)	41 (+ 30)	37 (+ 4)	38 (+ 22)
その他	344 (+ 26)	436 (+ 21)	472 (+ 22)	160 (+ 24)	162 (+ 18)	150 (+ 25)
合計	3,355 (+ 29)	3,878 (+ 22)	4,246 (+ 25)	1,419 (+ 33)	1,383 (+ 21)	1,445 (+ 23)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	44 年			44 年		
	1~3月	4~6月	7~9月	7月	8月	9月
食料品	504 (+ 9)	515 (+ 6)	538 (+ 21)	179 (+ 24)	163 (+ 5)	196 (+ 34)
小麦	72 (- 2)	75 (+ 9)	75 (+ 2)	29 (+ 39)	26 (- 9)	20 (- 17)
とうもろこし	59 (+ 1)	63 (- 6)	54 (+ 1)	22 (+ 11)	12 (- 33)	20 (+ 28)
砂糖	53 (+ 16)	41 (- 6)	48 (+ 85)	13 (+ 55)	15 (+ 62)	19 (+ 146)
原燃料	1,919 (+ 7)	2,033 (+ 6)	2,176 (+ 17)	718 (+ 10)	727 (+ 21)	731 (+ 20)
羊毛	99 (+ 20)	98 (+ 2)	108 (+ 17)	42 (+ 19)	33 (+ 7)	33 (+ 27)
綿花	108 (- 14)	115 (- 26)	97 (- 14)	29 (- 27)	35 (- 2)	33 (- 13)
鉄鉱石	218 (+ 17)	244 (+ 12)	253 (+ 20)	87 (+ 14)	84 (+ 16)	83 (+ 34)
鉄鋼くず	32 (- 19)	42 (+ 25)	66 (+ 103)	19 (+ 73)	22 (+ 154)	24 (+ 95)
大豆	66 (- 6)	69 (+ 1)	69 (+ 5)	28 (+ 3)	16 (- 10)	25 (+ 20)
木材	265 (+ 6)	331 (+ 5)	337 (+ 12)	118 (+ 8)	108 (+ 11)	111 (+ 19)
石炭	149 (+ 22)	157 (+ 25)	185 (+ 37)	60 (+ 24)	62 (+ 51)	62 (+ 37)
原油	464 (+ 11)	451 (+ 10)	456 (+ 13)	145 (+ 17)	162 (+ 16)	150 (+ 6)
化学製品	185 (+ 12)	194 (+ 23)	195 (+ 12)	69 (+ 7)	61 (+ 13)	65 (+ 16)
機械機器	364 (+ 10)	404 (+ 19)	438 (+ 43)	141 (+ 26)	153 (+ 64)	144 (+ 43)
鉄鋼	66 (+ 3)	52 (+ 2)	50 (- 11)	15 (- 14)	16 (- 20)	19 (+ 1)
非鉄金属	212 (+ 32)	206 (+ 35)	244 (+ 68)	70 (+ 58)	81 (+ 63)	93 (+ 83)
その他	172 (+ 19)	196 (+ 32)	243 (+ 36)	79 (+ 29)	82 (+ 38)	82 (+ 42)
合計	3,422 (+ 10)	3,600 (+ 11)	3,883 (+ 23)	1,271 (+ 16)	1,283 (+ 24)	1,329 (+ 28)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。